

## 像とコミュニケーション

——ルーマンとバルトの議論を手掛かりにしつつ——

大黒岳彦(明治大学 情報コミュニケーション学部)

本発表では、近年の映像メディア技術の発展によって「映像」が認識論的な場面から対他者的なコミュニケーションの場面に移されることで如何なる哲学的な問題が惹起するのかについて考えたい。考察にあたってはコミュニケーション論的な観点から「映像」の問題に対して犀利な分析を行っている N.ルーマンと記号論的なアプローチで独自の「映像」論を展開しているロラン・バルトの議論を参照項として援用したい。映像とコミュニケーションとの関係の究明は来るべき高度情報社会の存立構造分析のためにも必須の作業であると考えている。